

豊明市議会議長 殿

行政等視察報告書

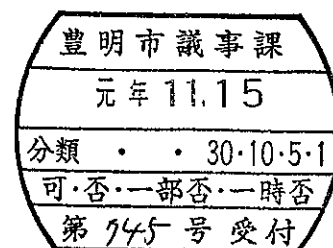
議員名 近藤 郁子

令和元年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
令和元年 10月 29日	兵庫県姫路市 (姫路城管理事務所)	「ARを活用した 姫路城の新たな演出」について
令和元年 10月 30日	高知県高知市 (高知 ぢばさんセンター他)	「第14回全国市議会議長会 研究フォーラム」 【1日目】 第1部 基調講演 「現代政治のマトリクス ーリベラル保守という可能性」 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 中島岳志氏 第2部 パネルディスカッション 「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター 坪井ゆづる パネリスト 高部 正男 他3名 第3部 意見交換会
令和元年 10月 31日		【2日目】 第4部 課題討議 「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター 坪井ゆづる 事例報告者 滝沢一成 他2名 ※別添報告有

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。



令和元年 10 月 29 日 兵庫県姫路市（姫路城管理事務所）

■ 「AR を活用した姫路城の新たな演出」 について

- ・平成 27 年姫路城大天守保存修理工事完了グランドオープン～AR 開始
- ・1 年目 10 万人入場者の 5% が AR を活用。
 - ※スマートフォン等でダウンロードし、城内の各ポイントで姫路城の伝説等の説明を聴いたりや記念写真撮影ポイントとして活用。
 - ※維持費：2～3 千万円(ポイント増の場合、9P 毎に 1 千万円追加)
- ・その後、平成 30 年 7 月より近畿日本ツーリストの運営管理で VR を開始
- ・城内だけでなく、家庭でも見ることができる。
 - 専用器具を購入して活用する。
 - ※維持費等は、近畿日本ツーリスト運営管理によるもの

■ 視察して

視察の目的は、豊明市にある桶狭間古戦場跡の観光化であり、今川義元公をお祀りする行事を例年行い、古戦場祭りとして祭りを開催するがさらに観光客＝豊明市を訪れるようにするために、どのような策をたてればいいのかが目下の課題である。

桶狭間古戦場跡だけでなく姫路城の AR のように、豊明市の各所の紹介等ができること、伝説地を訪れる方々も増加するのではないかと考えられる。

できれば、利用いただく方に負担をかけることなく、楽しんでもらえることができることを望むものである。

【第1日目】

第1部 基調講演 「現代政治のマトリクス - リベラル保守という可能性」
講師：中島岳志氏 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授

1. 現代政治のマトリクス

中島氏は、X軸のリベラルの対立軸にパターナル(父権的・封建的)において価値観
Y軸にリスクの社会化(大きな政府)の対立軸にリスクの個人化(小さな政府)を置き、
現代政治のマトリクスを表現し、
近年の自民党総理大臣をそのマトリクスで表現される4パターンで当てはめた。

- I：リスクの所在は政府で権力的 田中角栄氏
- II：リスクの所在は政府で寛容的 大平正芳氏
- III：リスクの所在は個人で寛容的 小泉純一郎氏
- IV：リスクの所在は個人で権力的 安倍晋三氏

その中で、現在の日本は、国民の収入(税金)や公務員数等から世界の中でも指折りの災害に弱い小さな政府とした。

2. ラディカルデモクラシーとポピュリズム

その中で希望の党がなぜ失敗したかに触れ、小池百合子氏がのちの立憲民主党を排除したことにより、排除された人が主流になるとし、現在は、当時の枝野氏に代わって山本太郎氏のれいわ新撰組がフィーバーしたとした。

※ ラディカルデモクラシーについて

- ①熟議デモクラシーを民主主義のベーシックとし、枝野氏を例えた。
- ②闘技デモクラシーは政治的に対立的に明確にし闘う山本氏をあげ、主に低所得者に対してポピュリズムをわきたたせるとした。

3. リベラルの逆襲

4. 保守とは何か？

※ 講演を聞いて

保守とは、永遠に微調整をしていくこととし、自分と異なる意見に対して合意形成のため？落しどころを見つけること＝微調整とした。すべてのことが多様化する現在において、現代政治においてリベラル保守に可能性を見出すということは、戦後より行われてきたと考える。なぜなら社会主義のように税金を徴収することなく、皆保険が成り立っている国は他にはない。

これは日本人気質のなせる業であり、他国と同じことを持ち込んでも成功するとは考えられないのである。日本人気質が保守的であるとするなら、時代の流れ、社会情勢にアンテナを張って、微調整を続けていくことだろう。

第2部 パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）

- ・ 最終決定権をにぎる議会の責任は重い。公明正大で説明可能な判断を求められる議会(議員)像はいまでは常識で議員間でも共通認識になっている。
- ・ 変化の起点は地方分権一括法の施行から。
- ・ 議会基本条例等成果を出してきたが、自治の主役という自覚に欠ける議員が存在しているという議会不信が根強くある。
→このフォーラムをこうした世論を踏まえつつ、活力があり、質の高い議会を実現するための具体策を考える機会に。ゆえに「議会活性化のための船中八策」。

議会を活性化するために【問題点】

- ・ 根性論でなく、データを踏まえた議論をすべき
- ・ 議会側から仕掛けていく→地域の将来を見据えた政策論議
- ・ 情報公開の徹底
兼業の可能性→なり手不足問題→女性・若者の参加

パネリスト 高部正男氏（市町村職員中央研修所学長）

- ・ 議会活性化の船中八策は、住民目線で
- ・ 議会基本条例制定→議会の現状を認識し、議員同士が議論の上まとめることが重要
- ・ 議員の位置づけ→住民代表の意味→誰を代表しているのかが大切

パネリスト 横田響子氏（株式会社コラボラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授）

- ・ 20年後でも住民は幸せ？ →具体的には、中長期視点で目指す方向を議論
- ・ 数字＝データを基に政策が立てられているか →経験の機会提供
- ・ 若手・女性＝多様性があるか →ガチンコ会議を多様な人材で実施
- ・ その他に、女性議員の自己評価の仕方
- ・ 政策に興味を持つ →自分でつくと興味はわかない

パネリスト 古川康造氏（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

【住民をベースにデベロッパーによるメインストリート再生計画】→向こう100年を見据えて

- ・ 住宅整備とテナントミックスは、両輪
- ・ 地権者が個々の主張より全体の利益をシェアしたほうが得ということに気づいた
- ・ 車に依存しない歩いて事足りる→歳をとれば丸亀町に住みたい！
→地元主導でしか街づくりは成功しない！コミュニティーの存在こそが成功の必須条件

パネリスト 田鍋 剛氏（高知市議会議長）

【議会の？】

- ・ 基本条例に基づき議会報告会開催→参加者は決まっている
- ・ 意見交換会→「近こうよれ」？ 議会で聞きたければそっちから来い！
- ・ 「困りごと会議」→何か困ったことはない？
→議会改革の必要性→議会のないことはありえない→成り手の確保（議員年金問題、専業率50%）

※パネルディスカッションから 「議会活性化の船中八策とは…」

船中八策は坂本竜馬が幕末に起草した新国家体制の基本方針の俗称である。当時、新しい国家を目指して画期的な政策であったことから、改革的な政策についての総称とされる。

小さな国土の日本でもそれぞれの地方の気質があり、情報時代であっても地域コミュニティーを代表する議員（議会）の船中八策は画一的では皆無だろう。以前、学力向上で成果をあげた市町を視察した際にその地域性が子供の学力向上に大きく関わっていることを知った。理想、目的は同じであっても、丸亀商店街の活性化が地元主導でなければ成功しないといわれるように、議会も（市議会は特に）地元密着であるべきだろう。わが街の船中八策は、わが街の議会がリードしなくてはならない。

【第2日目】

第4部 課題討議 「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）

【2011年から朝日新聞が実施する地方統一選挙ごとの地方議会についてのアンケート】より

- ・ 女性議員について
男女の数をできる限り均等にすることを政党に求めた法律が施行され、市議会でゼロなのは36議会（4.4%）。わずかに「女性ゼロ議会」が存在する。セクハラは有権者からの被害が4割。
- ・ なり手不足について
市議会において27%で課題になっている。
- ・ 報酬について
ここ4年で報酬増額した議会→400議会、報酬減額した議会→49議会
- ・ 議会基本条例について
制定している市議会→63.7%・検討中or近く制定→2%
- ・ 3ない議会について
①議案に否決・修正をしない②議員提案の政策条例を制定しない
③議員個人の賛否の公開をしない
こうした議会は、年々減少している。一部議員から議案は事前の協議で修正といわれるが、住民に見えない形の事前協議で決めていくことで、議会への信頼、理解が得られるのか。

事例報告者 滝沢一成氏（上越市議会議員） 【市議を目指しやすい環境整備への提言】

- ・ 市議を目指しやすい環境整備検討会設置
目的：市議を目指すことを阻害する現状要因など把握し、その改革案を策定すること。
検討：阻害原因自体が議員と市民とは違った。市民が市議を目指せないのではなく、目指さない。
その理由：議会のことに興味がない→やりがい、価値観が感じられない。
市民が見たこと自体ない、議会の魅力を見せるところから始めなければならない。
- ・ 市議を目指してもらうために段階が必要
心的要因→議会の存在価値 やりがい、おもしろさ
物理的要因→お金・ひと 選挙費用、報酬や身分保障、支援者等についての不安
環境的不安→地域の理解、家族の理解、女性への理解等の壁
- ・ 検討会答申 5つの大項目と19の小項目で構成→議会改革案のような内容
→その中で早急に取り組むべき7点を選出
「見える議会・魅せる議会は、①住民協働力②立法力③行政との対峙力④情報収集発信力
の揃った議会であり、議会改革推進こそ議員を目指す人々を説得する最大の力」

事例報告者 久坂くにえ氏（鎌倉市議会議員） 【女性議員の現状と視点】

- ・ 顕在化した課題 ①会議規則に出席が欠席事由、期間の規定がない
②会議運営で、多様なバックグラウンドを抱える議員への配慮なし（女性職員の同様）
- ・ 現在の風潮 ①女性活躍推進法 ②政治分野における男女共同参画推進法の施行
- ・ 環境整備に向けて ・ IPU「ジェンダーに配慮した議会のための行動計画」に則った議会における
仕事と家庭の両立支援のためのインフラ及び議会文化の整備又は改善

事例報告者 小林雄二氏（周南市議会議員） 【周南市議会事例報告】

- ・ 平成15年2市2町の合併で生じた、議員報酬問題が発生。
特別職報酬等審議会が3回の審議会を踏まえ、現行通り1市4報酬制度としたが、議長・副議長が市長に対して議会の総意として報酬額を速やかな一本化を要望し、市長は一本化する議案提出するが、報酬等審議会委員6名が市長に抗議があり、在任特例期間中は報酬額を10%減額する修正を加え、一本化する条例改正案が可決されたが、その後議会は市民からの解散請求、住民投票→出直し選挙に。
- ・ 議会解散の経験を教訓に→「市民により開かれた市議会」を目標に議会改革特別委員会の設置
- ・ 様々な議会改革を開始→行政監視機能の充実→委員会懇談会

第14回全国市議会議長会研究フォーラム 「議会活性化のための船中八策」に参加して

昨年に引き続き、市議会議長会研究フォーラムに参加して、通常の行政視察で得るものとは異なり、市議会がどのような課題を抱え、どのように解決していくのかなど、議会としてまた議員として考えていくにはいい研究フォーラムだと感じている。

今回のテーマ「議会活性化のための船中八策」は開催地が高知県高知市であることから、坂本龍馬になぞらえて、改革的な議会の発想を！と船中八策がテーマにされたと思う。

さて、その船中八策をテーマに基調講演からパネルディスカッション、課題討議がなされたわけであるが、パネルディスカッションで丸亀商店街振興組合理事長古川氏の高松丸亀町まちづくり戦略のなかで話されたように、再開発成功の大前提はコミュニティーの現存が不可欠であり、地元主導でしかできないということに納得させられている。

それは以前、地域によって気質も異なり、成功はそこから始まること、インターネットで得た情報そのままを展開しようとしても、同様の成功にはならないことを見てきたことによる。

成功例も成功したところで終わっていることが多く、その後さらにどのように継続していくことができるのかが、20年後を見据えた議会からの提案でなくてはならないだろう。

持続可能な社会を目指すためには、現代の時の？情勢の？移り変わりの中では、20年後というような悠長なことを言うてはいられない。常に変わっていけるような議会が望まれていくだろう。しなやかにいつでも対応できる力を持つために、議会がどうしていくのかが求められると考える。

今回のフォーラムで、女性議員のこと、議員の成り手不足のことが課題であるとされてきたがわが市議会においては、5年前の選挙では20名定員に対して35名が出馬したこともあるし、女性議員も今期こそ20人中6人になったが、その前は、顔ぶれは入れ替わったが、7人の女性議員が在籍していた。女性が初出馬して落選したことは例がない。

セクハラについては、なかなか難しい問題であるが、市民に対して八方美人になることなく、考えを伝えたり、相手の虫の居所が悪かったりすると、罵声を浴びることは経験する。が、それは男女関係なく起こりうる議員あるあるだろう。それにめげて、そういう方々を避けているようでは、次の話ができなくなる。しつこく？話し続けることで次に繋がると確信している。

女性議員として、私が望むことは、女性と認識していただかなくては困るわけだが、仕事中は女性と意識してもらわないこと。産休のことやそのほかにも人として、生活していくことについての様々なことについての合理的配慮については、女性に限らず進めていかななくてはならないことだと思っているが、議員といえども、個々が多様化する中で、一定の線引きがなければ最高の大人の会議において収拾がつかなくなることも考えられるので慎重に考えていかななくてはならないと思う。

【参考】

マトリクス＝基盤

リベラル＝自由主義的、個人の自由、個性を重んじるさま

※個人の内的な価値の問題に権力は土足で踏み込まないという原則を持つ

保守＝旧来の風習、伝統を重んじ、それを保存しようとする

(広辞苑より)

ラディカル＝政治においては「急進的」を意味し、急進主義とは、世の中の仕組みや価値体系の根本的改革を目的とする。

デモクラシー＝民主主義。

ポピュリズム＝平民主義、大衆主義。一般大衆の利益や権利を守り、大衆の支持の下に既存のエリート主義である体制側や知識人に批判的な政治思想。